ＳＮＳ教育プログラム　レッスン２　学習指導案

１　単元名　　ＳＮＳを投稿する前に考えること

２　本時のねらい

インターネットやＳＮＳ等のリスク見積りトレーニングをすることをとおして、人によって受け取り方が異なることに気付き、投稿する際に様々な状況等を推察し判断することができる。

３　本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **時間** | **学習活動** | **指導上の留意点** |
| 導入  （10分） | ・前時の内容を確認する。  ＜予想される生徒の反応＞  ・コミュニケーションって難しい  ・顔を見て話をした方が、気持ちが伝わりやすい | ・以下の２点を再確認する。   1. 自分と他人の物事のとらえ方や感じ方には違い（感覚のズレ）があること。 2. テキストコミュニケーションは対面のコミュニケーションとは異なること。 |
| 展開１  （10分） | 問い掛け：例えば、こんなことが起きたことはありませんか。  ・ＳＮＳで、「友だちだし、ちょっとくらいいじっても怒らないだろ　う」と思っていたら、相手が急に怒り出してしまった。  ・「これをアップしても、誰も傷つかないだろう」と思っていたら、　　実は友だちがとても落ち込んでしまった。  指示：“こんなつもりではなかったのに・・・”とならないように予想する学習をします。  リスクの見積りトレーニング①  指示１：隣の人の顔を見ないで行います。   1. 紙に「昨日の出来事」を書いて交換してください。 2. 渡されたら、コメントを書いて返してください。 3. これを２分間繰り返してください。 4. 感想をワークシートに記入してください。   指示２：今度は相手を見て、相手の表情をよく確認しながら「今週末の予定」について２分間会話をしてください。終わったら、感想をワークシートに記入してください。  ＜予想される生徒の記述＞  　・顔が見えないので、不安な気持ちになった  　・相手の顔を見て話すと、お互いの表情から伝えたいことが伝わっていると思った | ・ワークシートを配付し、以下の問い掛け、説明を行う。  ・数名を指名し、感想を発表させ  る。  ＜指導のポイント＞  テキストコミュニケーション  　・顔が見えないと予測が難しい  ・意図が誤解される  　・認識のズレが生じる    対面でのコミュニケーション  　・無意識に相手の表情や気持ちを想像して話している。 |
| 展開２  （20分） | リスクの見積りトレーニング②  発問：ワークシートのＳＮＳのやり取りを見て、その後を予想しよう。  また、その理由も考えよう。  ・４人グループを作り、ワークシートのＳＮＳでのやり取りを見て、まずは個人で考え、その後グループでその後の展開を予想する。  ＜予想される生徒の反応＞  　・テキストから判断するのは難しい  ・結末は同じでも、理由が違う  ・人によって価値観は違う | ・まず個人で考えさせ、その後４人グループで交流させる。  ＜指導のポイント＞  ・意図の誤解や認識のズレが生じることを気付かせる。  ・ネット上のコミュニケーションにおけるリスクを再確認する。  　・簡単にコピー、瞬時に拡散  　・個人情報が特定される  　・完全に消えない |
| まとめ  （10分） | ・ＳＮＳ投稿前Checkを確認する。  ・映像を観て、今までの授業を振り返る。  　「デジタルTATTOO」「言葉は弾丸にもなる」（公益財団法人ＡＣジャパン）  ＜予想される生徒の反応＞  　・ＳＮＳは恐い  　・他人ごとではない  　・相手のことを考えて発信する必要があると思う | ・ＳＮＳ投稿前Checkを読み上げ  る。  ＜指導のポイント＞  ・下記のことを伝える。  ・ＳＮＳを利用時、投稿する前に、その投稿は「本当に問題ないか」自分で考えることが大切であること。  ・ＳＮＳサービスについて教えられることは限られており、各自が理解し気を付けることや、何かあれば相談するとよいこと。 |

４　教材　　ワークシート「リスクの見積りトレーニング」

　　　　　　※出典：「ＳＮＳノート（情報モラル編）カード教材　こんなつもりじゃなかったのに」（LINE株式会社）

　　　　　映像「デジタルTATTOO」「言葉は弾丸にもなる」（公益社団法人ＡＣジャパン）

５　実践するにあたって

　(1) 概要

　　　○　リスクの見積りトレーニング①

　　　　・ペアでの活動がスムーズに行えるよう、相手に配慮して積極的に参加するよう指導する。

　　　　・テキストコミュニケーションと対面のコミュニケーションの違いについて、生徒が体験をとおして気付くことを促す。

　　　○　リスクの見積りトレーニング②

　　　　・用意されている３つのケースすべてに取り組む必要はなく、グループ内でもっとも印象的なケースを選んで取り組ませるなど、生徒の実態に応じて柔軟に対応する。

　　　　・仮想のＳＮＳでのやりとりをとおして、個人およびグループでその後のリスクを予想させ、トラブルにならないための方法の最適解を求めさせる。

　 (2) 基本的なスタンス

　　　・一番大切なことは、生徒がＳＮＳにおけるトラブルを自分のこととして捉えることだが、単に怖がらせて終わりでは効果的とはいえない。ＳＮＳトラブルは、自分の振る舞い方で予防、回避できることを理解させる。

・したがって、リスクの見積りトレーニング②では、いずれのケースにおいても、トラブルになるという前提（もしくはトラブルの芽が潜んでいるという前提）で臨むことが必要である。

　（3）工夫するとよい点（研究指定校での公開授業、研究協議より）

　　　・意見を共有する時間を確保するとよい。

　　　・映像を利用しにくい環境の場合は、コミュニケーショントレーニングに十分な時間を使ってもよい。

　　　・ＳＮＳに関して保護者とどのように話をしてきたかを確認してはどうか。